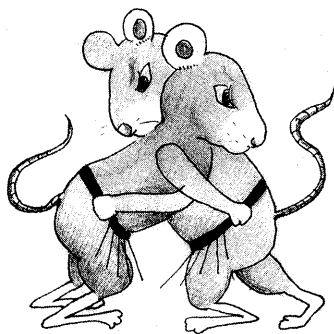


ひとりひとり

～一卵性双生児子育て記～

4歳～5歳

須藤 麻江



竜平と訓平のふたりが幼稚園に入る直前に、私の両親と同居することが決まり、バタバタと調布から世田谷の実家に引っ越すことになりました。入園を決めていた幼稚園をキャンセルし、あまり深く考えることもなく、私がかつた幼稚園に入園手続きをすませました。

幼稚園は、年少から年長まで全園児あわせて五十人ほどの小さい園です。若く明るい先生達は、きれいな色のさっぱりした服装でてきぱきと動き、園長先生は今の傾向である、給食、通園バス、延長保育に反対の姿勢を貫いていらっしやいます。その方針は、私が在園していたときと少しも変わっていません。私は、園長先生の頑固

さに好感をもちました。

子どもたちは、以前の団地のように安全な空間もないし、友達もない所に越してきたかと思ったら、その数週間後には全く知らない子どもや、大人の中にぼんと放りこまれた訳です。お気の毒というより他ありません。

「入園しました」というと聞こえはよいのですが、実際は「ぶちこんだ」といった方がよいかもかもしれません。双子なんだから、「ふたりの世界でしあわせ」もよいけれど、よその子たちにゆさぶられることも大事と考え、親は勝手に子どもたちを幼稚園にぶちこんでしまったのです。案の定、はじめの半年は親も子も大変でした。そう、先生も、です。

幼稚園でのふたり

・四歳一か月

もう！ 竜平、訓平、何でお家に帰ろうとしたの。園長先生びっくりしてしまいましたよ。あなた達がいけないから、あわてておいかけたとか。観音堂の坂を上がっていくところ

で、追いついたそう。そんなに幼稚園、いや？ お家がいいの？

入園してから、半年は毎朝、園の入口で「帰ろうよ」といって泣きました。たいてい、竜平が泣いて、訓平は不安そうにまゆにしわをよせて、私にびったりくっついていてという具合でした。先生が、ふたりを園に入れて門をガラガラと閉める、その音が刑務所の牢屋を連想させて、なんともいやな気分になりました。

そういえば、私自身も、母が三年保育に入れようとしたのを入園テストのときにきちがいのように泣き叫んで（それも二年続けて）結局一年保育になったという経歴の持ち主です。私の母は、そんなにいやがるのなら、来年にしましょうと、私の行きたくない気持ちを優先して、入園を延ばしてくれました。

しかし、ふたりの場合は、そうはいきません。引越してきたばかりでお友達はいない、幼稚園に行かなければ、昼間公園に行っても同年齢の子とも達はいない、午

後行っても園単位のグループで遊んでいる中に、ぼんと入ることはできない……いわば、幼稚園は、友達づくりのバスポートみたいなものだったからです。それに、中に入ってしまったら、楽しく過ごすだろうという気持ちもありません。

ところが、ふたりはなんか、不満気、ふくれっ面でてくる人が多いのです。そこで園の様子を先生に伺ってみましたところ、「元気でやっていますよ」とのこと。ただ、他の子が積み木やレゴで遊んでいると、いきなり壊したり、ふたりでけんかしたりと台風の目になっているようでした。ふたりのクラスは十六人。そのほとんどが、年少クラスからあがったり地域の幼児教室で一緒だったというように顔見知りでした。ですから、遊ぶにしても自然にグループができてしまうわけで、ふたりはそこに入れないようでした。

「入りたい、でも入れない」このジレンマが破壊行為に姿をかえて爆発してしまったのでしょう。私は、しばらく、様子を見ることにしました。

● 四歳六か月

今日、お迎えの時、先生によられました。七夕の劇の練習をまるでしないそうね。となりの用具の部屋で、かくれんぼをしているんですね。先生が迎えにいくと、見つけてくれるまでかくれているそうですね。

キョッキョキョキョって、ひとしきり遊ぶと

「せんせい、もう、あっちいいいいよ」

「みんなのところへ、いっていいよ」

というそうですね。うーん……。

先生は「もう仕方ないんですよ」と笑いながらいってくださったから、私も少しは安心したのだけど、困ったもんだ。

家に帰ってからききました。

「訓平、どうして、劇の練習しないの？」

「だって、せんせいが、やれっていうことやって、いっていいこというの、つまらないもん」

「龍平、うたうのすぎでしょう。どうしてうたわないの」

「みんな、せんせいがうたえていったもんうたうんだよ。つまらない」

もう、やっばり困ったもんだ。

結局、七夕会の舞台の上で、ふたりは棒立ちのままなんにもしないで、ぼ——っ。

園では、先生の「しまししょう」という言葉かけには従わず、好き勝手なことをして遊んでいたようです。

今、自分のしたいこと、自分のつもりがよくて、先生が「しまししょう」ということと、そのつもりが一致しないと頑として従わなかったようです。さいわい、担任の先生がゆったりした方で、ふたりを強引に保育の流れにひきこんだりということはなさらず、見えるところから声をかけて興味をつなぐようにしてくださいました。うです。「困った子」「集団活動を乱す子」というレッテルをはずす、大きい目で見ていてくださったことをとても有難いと思います。

はじめて入った集団活動の場で、一番身近な先生としてこのような方に出会えたことは、ふたりにとってとても重要なことだったと思います。



◀ ピースサイン・竜平、口の中に手・訓平（五歳）

秋になると、ふたりもすっかり友達の輪に組みこまれ、園の前で泣くこともなくなりました。

●五歳一か月

今日も、先生とけんかをしたといひます。真っ赤な目をして、ブンブンおこりながら園からでてきました。なにが原因かはしらないけれど、先生とこんな風に対立するのはよくないね。

年長になると、だいぶ園の生活にも余裕がでてきたようです。訓平は、お誕生日会するとき、舞台の上で「大きくなったら なになりにりたいですか」ときかれて「ぶたになりたいです」と答えるほど、度胸がついてきました。竜平は、新しい先生が、ときばきしていて勝手は許しませんよ、という方だったので、だいぶ、ぶつかるところが多かったようです。よく、トイレにたたされたり、部屋の外に出されたりしていました。訓平は、竜平の様子をハラハラしながら見ていたようです。家に帰るとす

ぐ、「今日、竜がね……と、まわらぬ舌で一生涯懸命、竜平の悪行の数々を報告します。竜平が叱られたり、反抗したりする様子を、緊張してじっと見ていたのだということがわかります。降園後、あまりよそに遊びに行くこともなく、家にいることが多かったのも、園での緊張で疲れ果ててしまったのかもしれない。竜平は、もうさっぱりとしてお友達の家遊びにいらっているというのに。

すぐ、わあわあ大騒ぎして大人を煩わせる竜平は、あちこちぶつかりあいながらも、のびのび過ごしました。訓平は、竜平にハラハラ、ドキドキしながら、ちょっと緊張して過ごしました。

竜平が五歳の時、一か月入院しました。訓平は夜になると「竜が死んじゃうー」と言って泣きました。面会は子どもはできないので、お留守番をしているように言ってもききません。結局、小児病棟の入口で、一人でずっと待っていました。(看護婦さんに竜平とまちがえられ

て「なんでこんなところでてるの！」とどなられたり
しましたか)

訓平は、一生懸命竜平のことを心配しているのに、竜
平はまるでわかっていないようでした。

友だちとふたり

●四歳九か月

竜平、本当にあなたはわがままですね。とんかちは二本し
かないの。ちゃんとじゃんけんで、順番きめたでしょ。訓平
とけんちゃんが先に使うことになったのに、竜平はわあわあ
ぐずって、大変な騒ぎ。

「どうして自分の家なのにぼくがあとなの」って。そし
て、「やってみせてあげるから」と言って、けんちゃんが
やってるところに手出しをする。もうっ。

*

●四歳十か月

砂場で、先が三つに割れている熊手のようなものがありま
した。訓平がそれを使おうとすると、訓平とたいして年の違

わない子が、先にとってしまいました。訓平、一言。

「これはね、こどもがつかうもんじゃないの」ですって。

はつきりいって、訓平、あなたも子どもです。

お友達とよく約束するのは、竜平。訓平はどちらかと
いうと家に来てもらって遊ぶ方がでかけていくよりも多
かったようです。お友達が家にくると、ふたりはそれぞ
れに身勝手に、すぐに場をしきりたがる傾向がありました
た。外へ行くときは「はい、並んで」といって、全員を
並ばせ、二列で行進しながら公園へいったり、「訓平の
組」「竜平の組」といってふたつにこれまた勝手にわけ
たり。園では、「しまししょう」に従わないというのに
家ではすっかり「先生」になってしまふのです。そんな
遊び方を見ていると、いつかこのふたり、友達からボー
ロットされるのではないかと親の方が心配になってきま
した。

お友達がくると、私も、一緒に遊びました。小麦粉粘
土を作ったり、家中の毛布といすでお家を作ったり。そ

れはそれで、とても楽しかったのですが、結局、私が子どもの中に入って双子のわがままにブレーキをかけ、子ども同士の間係を調整してしまっていたようです。わがまま言っていると、友達がいなくなるよということをも自分の心でじんわり知ることが必要だったのです。訓平は訓平のやり方で、竜平は竜平のやり方で、ストリートに友達と関わり、その結果がうまくいかなかったら、はたと考えて関わり方をかえてみる、そうやって人と人のつき合い方を学んでいくのが本当だったと、今になって思います。反省。

ひとりとひとり

●四歳八か月

訓平はすごい。もう三日、自転車補助をとって乗る練習をしています。何度倒れたか。足から血がでてる。ひじも。

でも、あきらめない。ギーコ、ギーコ、バターン！

がんばれ。竜平は二階から、訓平の様子を見ているだけ。

竜平、いいの？

●四歳八か月

*

やっとすいすい乗れるようになりました。訓平!! やったね。

竜平が、やっと自転車に乗って練習をはじめました。何度か、ギーコ、ギーコやって……でも、一回もころばずに……の・れ・て・し・ま・っ・た!!

ああ、訓平は一週間かかったのに。

何をやるのでも、訓平より竜平の方がはやい。しゃべるのも、おもちゃをとるのも、食べ物をとるのも、私の膝にのるのも……

補助なし自転車に乗れるようになるのも。

訓平、血を流して一週間、竜平、無血で数時間。

努力する、がんばる、ということとはとても大事です。

わりと器用になんでもこなす竜平より、無器用ながらも、がんばってものにする訓平の方が、先に行って楽なのではないかと思いますが、どっちにしろ、ふたりとも

◀ 手前が訓平、奥が竜平、補助付自転車て（三歳）



素敵な人生を歩んでいってほしいものです。

訓平と竜平は、同時にうまれてきて同じ環境で育っても、ひとりとひとり。ふたりの違いは差ではなく、個性です。私は双子を育ててみて、改めて「十人十色」という言葉を思いました。人間、そもそもみんな違って当たり前。違いを削って同じにするのではなく、違いを膨らませてまあるくなれたらいいなあ……。ますます、違ってきたふたりをみながらそう、思います。

（作家・ツインマザーズ所属）